

科目名	異文化理解概論					
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照			
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	2 年次	単位数 2 単位
教員名	平野 亜也子					

授業概要／Course outline

アジア言語学科英語教職課程関連選択必修科目の一つです。
異文化理解を深めるために必要な概念や理論を学習し、多文化共生社会で活躍するのに必要な知識やスキルを身につけます。授業では、学習した内容と自身の体験とを照らし合わせワークを行い、自身の文化・アイデンティティを客観視する力を身につけます。講義は日本語と英語で行われますが、授業前に視聴する動画は英語を使用します。この授業を通して、学習した内容を英語でまとめる力、さらに異文化について自分の考えや体験を説明できる力を身につけます。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／反転授業）

このクラスは反転授業形式を取ります。学生は授業前後に動画を通じて学習をすることが求められます。授業活動は動画の内容をもとに進めます。

・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業／遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

オンデマンド教材があります。動画を視聴して授業に臨んでください。

授業内容・授業計画／Course description・plan

1: オリエンテーション

授業・シラバスの説明があります。

これまでの異文化体験・この授業で個人的に達成したい目標について話し合います。

2: 異文化理解の意義

異文化理解を学ぶ社会的・個人的意義について考えます。

★ オンデマンド

講義に関する 10 分ほどの動画（視聴期間は 1 週間）を視聴して小テストを受けてください。

3 & 4: 文化とは？

文化の特徴や様々な側面を学習し、自身の文化について客観的に考えます。自身の文化はどうやって構築されたのか、異文化とは何かということについて話し合います。

★ オンデマンド

講義に関する 10 分ほどの動画（視聴期間は 1 週間）を視聴して小テストを受けてください。

5: カルチャーショック

異文化に適応する際に、どのようなプロセスを辿るのかということについて考えます。自らの異文化経験に基づいて、適応のプロセスを段階ごとに考察します。

★ オンデマンド

講義に関する 10 分ほどの動画（視聴期間は 1 週間）を視聴して小テストを受けてください。

6: バーンガ

バーンガというゲームを通じてシュミレーションをします。

★ オンデマンド

講義に関する 10 分ほどの動画（視聴期間は 1 週間）を視聴して小テストを受けてください。

7: 固定観念

固定観念が異文化理解に与える影響について考えます。自らの経験を振り返り、固定観念について話し合います。

★ オンデマンド

講義に関する 10 分ほどの動画（視聴期間は 1 週間）を視聴して小テストを受けてください。

8: 差別

異文化間で起きる差別について理解を深めるために、差別の種類と差別が生まれる背景について学びます。

★ オンデマンド

講義に関する10分ほどの動画（視聴期間は1週間）を視聴して小テストを受けてください。

9: 価値観

人間の決断・行動に深く影響を与える価値観について学びます。自身の価値観を客観的に理解するためのタスクを行い、異文化間での価値観の違い、そして役割を考察します。

★ オンデマンド

講義に関する10分ほどの動画（視聴期間は1週間）を視聴して小テストを受けてください。

10: 異文化トレーニング

異文化理解能力を高めるために、実践的なトレーニングを体験します。

★ オンデマンド

講義に関する10分ほどの動画（視聴期間は1週間）を視聴して小テストを受けてください。

11: 自分を知る

自分自身のことを正しく理解したうえで、相手のことを積極的に評価することの重要性を学びます。

★ オンデマンド

講義に関する10分ほどの動画（視聴期間は1週間）を視聴して小テストを受けてください。

12: アサーティブコミュニケーション

異文化を理解することは自分を理解することであるという概念を軸に、円滑にコミュニケーションを図るスタイルを学びます。

★ オンデマンド

講義に関する10分ほどの動画（視聴期間は1週間）を視聴して小テストを受けてください。

13-14: ファイナルプロジェクト

ファイナルプロジェクトの準備と発表をします。

- ・教員—学生間の対話：第4-6週の期間内の授業回に実施します。
- ・学習成果実感調査：第14週の授業回に実施します。
- * 授業進度によってスケジュールは多少前後することがあります。

事前・事後学修／Preparation and assignments

1: オリエンテーション

事前学習：シラバスをよく読んでおくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

2: 異文化理解の意義

事前学習：教科書の第1章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

3 & 4: 文化とは？

事前学習：教科書の第2・3章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

5: カルチャーショック

事前学習：教科書の第4章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

6:バーンガ

事前学習：教科書の第5章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

7:固定観念

事前学習：教科書の第7章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

8:差別

事前学習：教科書の第8章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

9:価値観

事前学習：教科書の第9章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

10:異文化トレーニング

事前学習：教科書の第10章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

11:自分を知る

事前学習：教科書の第12章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

12:アサーティブコミュニケーション

事前学習：教科書の第14章を読み、分からない箇所・興味を持った箇所に印をつけておくこと。

事後学習：クラスで学習したこと、話し合ったことをまとめておく。

★ オンデマンド

事前学習：教科書の指定された箇所を読むこと。

事後学習：動画の内容を理解したうえで1週間以内に小テストを受けること。

13-14:ファイナルプロジェクト

事前学習：ファイナル・プロジェクトの準備をする

事後学習：授業でのフィードバックを基に振り返りをする。

* 授業の進行は学習進度により変更することがあります。

* 各対面授業に関する事前・事後学修は約180分を目安とする。事前・事後学習は合計で約2,700分とする。

上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標/Expected outcome

- ・自身のアイデンティティーを確立・認識する上で、異文化という概念を活用できるようになる。
- ・異文化理解を深めるために必要な知識や理論を考察できるようになる。

- ・文化の多様性を理解し、多様性を尊重できるようになる。
- ・多様性の観点から自身の文化を客観的に見られるようになる。
- ・他文化を客観的に観察し他文化から学ぶとともに異文化に柔軟に適應できるようになる。
- ・英語で異文化理解に関する意見を述べたり理解したりできるようになる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・思考力
- 専門知識・専門技能
【外国語学部 アジア言語学科】
・異文化理解

履修上の注意／Special notes, cautions

出席回数が全体の3分の2以上ない場合は「/（出席日数不足）」の評価となります。

- ・20 minutes late= 1 absence（20分の遅刻は欠席とみなします）
- ・3 times late = 1 absence（遅刻3回は1欠席とみなします）

パソコン等のデバイスを持って授業に参加してください。資料はTeamsにアップロードされます。課題はTeamsで提出してもらいます。

授業も動画の講義も基本的に英語で行われますので、ある程度の英語力や英語力向上へのモチベーションが求められます。テキストは日本語ですが、副教材には英語の資料も使用されます。授業では、様々なタスクに取り組んでもらうため、積極的な授業参加が求められます。

評価方法／Evaluation

積極的な授業参加10%、小テスト25%、課題50%、ファイナルプロジェクト15%
フィードバックは授業内で行う。

教 材／Text and materials

グローバルな時代を生きるための異文化理解入門（研究社）原沢伊都夫
ISBN 978-4-327-37752-6

質問や相談の方法／Instructor contact

オフィスアワー：金曜日1限 / 研究室：第4研究室棟 320号室 / メールアドレス：
ayakohirano@cc.kyoto-su.ac.jp
（事前にメール・Teamsチャットで連絡してください）